

帳稿  
合澤  
之諭  
法吉  
著

二編

四

永洋10  
180  
4

永10  
180  
4



藏書

帳合之法卷之四

廿三年八月廿九日

福澤諭

譯

譯者附言

此書初編二冊ニ略式ヲ譯シニ編二冊ニ本式ヲ譯シ終

ラントノ趣向ナリシガ本式ニハ四様ノ例アリテ其文

モ長クコレヲ二冊ノ紙ニ記ス可ラズ且其四例ノ内最

モ精密ナルモノハ第二例ニシテ其余ハ皆大同小異ノ

殊ニ其第三例ノ如キハ略式ノ第三例ヲ本式ニ改メ

タルノミノモノナレバコレヲ省クモ妨アルナシ今

コレヲ盡ク出版シテ本ノ紙數ヲ増シ大同小異ノ事ヲ

長合之法

卷之四 附言

10  
180  
4  
レ

此書初編

記スガタメニ譯書ノ價ヲ貴クシテ讀ム者ヲ倦マシメ  
シヨリ先ツ初ノ二例ヲ示ス方却テ便利ナル可シト思  
ヒコ、ニ至テ最初ノ趣向ヲ變シ本書ノ上卷ニ第一例  
ヲ譯シ下卷ニ第二例ヲ譯シ上下二卷ヲ以テ二編ト爲  
シタルナリ學者若シコレヲ見テ不足ナリトセバ其需  
ニ應ジテ尚未ノ二例ヲモ出版ス可シ譯者決シテ出版  
ノ勞ヲ厭フニ非ズ唯速ニ世間ノ用ヲ達スルニ切ナレ  
バ無益ニ本ノ体裁ヲ作テ多ク世人ニ錢ヲ費サシムル  
ヨリモ其費ヲ少クシテ事實ノ便ヲ謀ラント欲スルノ  
ミ

### 第二式

朱書ヲ用ユ

日記帳、清書帳、大帳、並ニ小帳ヲ用ユ大帳ヲ

ノ切り平均ノ表ヲ以テ其始末ヲ示シ

事ノ次第ヲ解キ明ニス但シ高賣

ハ利益ヲ得タル有様ヲ記ス

### 端書

此第二式ハ前ノ第一式ト高賣ノ趣ヲ變ジタレ其其實ハ  
前式ノ續キナリ第一式ニ用ヒタル高賣品ハ残ラズ賣拂

帳合之法 卷之四  
七其元手ヲ以テ干物食料等ヲ多分ニ仕入レ其取引ノ有  
様ヲ示スナリ又第一式ニ於テハ高賣ノ品物ヲ一々記シ  
一品毎ニ其名目ヲ舉ゲテ勘定ノ口ヲ設ケタレ氏第二式  
ニハコノ名目ヲ略シテ唯品物トノミ記セリ此書方ハ高  
賣ノ通法ニテ事柄ニハ差支ナケレ氏或ハ品物ノ種類ニ  
從ヒ此品ニテコノ損益アリ彼ノ品ニテ彼ノ損益アリト  
一々其品ニ就テ其損益ヲ見ントスル氏ハ品物ノ名目モ  
一々區別シテコレヲ記サミル可ラズ  
高賣ノ始ニ於テ正味ノ元入アルモノナレバ帳合ノ初筆  
ニハ現在ノ元手ト拂口トヲ記サミル可ラズ故ニ第一則

ニ從ヒ高賣ノ主人ハ元入ノ高ヲ以テ貸ト爲シ拂口ノ高  
ヲ以テ借ト爲スナリ  
此式ニ於テ始テ諸口ト云フ文字ヲ用ヒタリ諸口トハ諸  
口勘定ト云フ義ナリ此文字ヲ清書帳ニ用レバ取引ノ  
高ヲ大帳ニ寫スキ一々其箇条ヲ記スニ及ハズシテ手數  
ヲ省クノ便利アリ其便ト不便ハ此第二式ノ大帳ト前ノ  
第一式ノ大帳トヲ比較シテ明ニ見ル可シ  
大帳ノ勘定ヲ仕上ル趣意モ其仕上ケノ法モ此式ノ内ニ  
解キ明ニシタレバ學者コノ一条ヲ等閑ニ看過ス可ラズ  
抑モ稽古本ヲ以テ勘定ノ法ヲ學ブニ付キ最モ宜シカラ

ザル一ハ學者其定則ノ意味ヲ解セズシテ動モスレバ稽古本ノ体裁ノミヲ書キ寫シ形ヲ以テ試業ヲ遂ゲントスルノ一事ナリ其定則ヲ知ラザレバ其形ヲ作ルモ實ニ益アル一ナシ

第二式ノ帳合ヲ以テ示シタル商賣ノ趣ヲ見レバ此帳合ノ体裁ハ實ニ生徒ノタメニハヨキ手本ニテ慕ヒ學ブ可キモノト云フ可シ就中コ、ニ朱書ヲ用ヒタルハ十分ニ教ヲ明ニシテ其事ヲ解シ易カラシメンガ為ナリ概シテ云ヘバ此式ハ本式ノ帳合ノ高上シタル真面目ナルユエ生徒モコレヲ學ブニ深ク意ヲ用ヒザル可ラザルナリ

明治六年  
二月一日  
記帳

東京三田

今日左ノ元手ト拂口トヲ以テ商賣ヲ始メ  
タリ即チ前式ノ大帳ヨリ集メタル高ナ  
リ(三十九丁ヲ見ル可シ)

元手

有金 八二七。  
手形 一〇五。  
河内屋ノ勘定 一七五。

甲州屋ノ勘定

拂口

六〇〇〇

一七〇七〇

拂口手形

五〇〇

山城屋ノ勘定

六〇〇〇

尾張屋同断

七五〇

駿河屋同断

八二五〇

一五五〇〇

一日

相摸屋ヨリ買入代現金

たじ砂糖 十樽六石

四〇セク

二四〇

白砂糖 十樽九千五百斤

五セ

四七五

武藏屋ノ賣渡代掛

たじ砂糖 三升

五〇セク

一五〇

白砂糖 二百斤

六セ

一二

コッヒイ 百五十斤

一六セ

二四

三日

三七五〇

安房屋ノ賣渡三十日限手形請取

安南米 五子斤

四セ半

二二五

一七三二

城州茶 子八十斤

五〇セ

五四〇

コッヒイ 子五百七十五斤

一六セ

二五二

二日

白砂糖 二千百斤

六七久

一二六

城州茶 五百四十斤

五五七

二九七

三日

尾張屋へ差引濟切正金拂

四日

七五〇

上總屋へ賣渡代掛

砂糖一石二斗

四五七久

五四

五日

下總屋ヨリ買取六十日限此方ノ手形渡ス

油 十樽四百斤

一三七久

五二

石鹼 千四百斤

七七

九八

豚肉 千斤

一〇七

一〇〇

二五〇

野州屋へ賣渡代現金

豚肉 四百斤

一〇七半久

四二

安南米 五百斤

五七

二五

六七

六日

岩城屋へ賣渡代掛

安南米 千斤

五七半久

五五

コッヒイ 百五十斤

一八七

二七

八二

岩代屋ヨリ買取代現金

六日

芋 十俵

四三。。

三。

バタ 千斤

一八七

一八。

二一。

奥州屋へ賣渡代現金

七日

コッヒイ 十斤

一八セ久

一八。

石鹼 二百十斤

八セ

一六八。

一八六。

八日

仙臺屋ヨリ買取代現金

白砂糖 一万斤

五セ久

五五。

同別々 三千七百斤

九日

五セ半

二〇三五。

七五三五。

南部屋へ賣渡代掛

白砂糖 千九百七十斤

十日

六セ久

一一八二。

駿河屋へ差引金渡

十二日

四〇〇〇

駿河屋へ賣渡代掛

豚肉 二千斤

一一セ久

二二

コッヒイ 百十斤

一八セ

一九八。



白砂糖 九百斤

十三日

六七

五四

九五八〇

津輕屋へ賣渡代掛

バタ 百斤

二五七久

二五

芋 一俵

十四日

四

二九

南部屋へ賣渡代掛

コッヒイ 十斤

一八セ久

一八〇

バタ 五拾斤

二五セ

一二五〇

白米 五拾斤

五セ半

二七五

一七〇五

家賃心金拂

十五日

一〇〇

秋田屋へ賣渡代現金

バタ 百五十斤

二五セ久

三七五〇

上總屋ヨリ差引濟切心金請取

十八日

五四

武藏屋へ賣渡代掛

上茶 二十五斤

五六セ久

一四

油 五十斤

一五セ

七五〇

白米 二十斤	五七	一	二二五〇
河内屋へ賣渡代掛	二十日		
豚肉 四百斤	一一セク		四四
會津屋へ賣渡代掛	廿二日		
上茶 五十四斤	六〇セク		三二四〇
甲州屋ヨリ差引濟切請取	廿三日		
正金		三〇〇〇	

九十日限手形	廿五日	三〇〇〇	六〇〇〇
山城屋へ差引正金渡	ク		三〇〇〇
尾張屋へ賣渡代掛			
たどり砂糖 一石二斗	廿六日	四四三セク	五三六〇
米澤屋渡り此方手形引替正金拂	ク		五〇〇
白川屋へ賣渡代現金			

✓	書役給料正金拂								
✓	長岡屋へ賣渡代現金								
✓	米	五百斤	廿八日	六七之	三〇				
✓	芋	二俵		四三〇〇セ	六				
✓	コッヒイ	十斤							一九七之
✓	山城茶	十斤							五〇セ
✓	白米	五十斤	廿七日						七七
									三五〇
									五
									一九〇
									一〇四〇
									一〇〇
									三一六
									五七、一九八〇五

第二式

明治六年  
清書帳  
二月一日

東京三田

二丁	諸口借	九八へ							
四丁	正金								八二七〇
二丁	請取手形								一〇五〇
三丁	河内屋								一七五〇
三丁	甲州屋								六〇〇〇
二丁	元入借	諸口へ	一日						一五五〇〇
									一七〇七〇

子	子	子	子	子	子
請取口手形	品物	品物	品物	武藏屋	品物
借	借	借	借	借	借
三日	一日	一日	一日	二日	二日
四二三	一七三二	一七三二	一七三二	三七五〇	三七五〇
四二三	五〇〇	六〇〇〇	七五〇	八二五〇	三七五〇

子	子	子	子	子	子
請取口手形	尾張屋	上總屋	品物	品物	品物
借	借	借	借	借	借
三日	夕	四日	五日	五日	五日
四二三	七五〇	五四	二五〇	二五〇	二五〇
四二三	七五〇	五四	五四	五四	五四

長谷之太  
卷之四

十 駿河屋	六 南部屋	四 品物	六 正金
借	品物へ 借	正金へ 借	品物へ 借
十日	九日	八日	七日
四〇〇〇	一一八二〇	七五三五〇	一八六〇
	一一八二〇	七五三五〇	一八六〇

帳合之太  
卷之四

四 品物	六 岩城屋	四 正金	八 拂口手形へ
正金へ 借	品物へ 借	品物へ 借	
夕	六日	五日	
二一〇	八二	六七	
二一〇	八二	六七	二五〇

十二 武藏屋	十一 正金	六丁 正金	四丁 正金	十三 雜費
借	借 上總屋へ	品物へ	借	借
	十八日	十七日	ク	十五日
二二五。	五四	三七五。	一〇〇。	
	五四	三七五。	一〇〇。	

六丁 南部屋	六丁 津輕屋	六丁 駿河屋	四丁 正金へ
借 品物へ	借 品物へ	借 品物へ	借
	十四日	十三日	十二日
一七〇五	二九	九五八。	
一七〇五	二九	九五八。	四〇〇〇

五丁	八丁	七丁	九丁	四丁	八丁	二丁
拂口手形	尾張屋	山城屋	請取口手形	借	借	借
借	借	借	借	借	借	借
廿六日	ク	廿五日				
五〇〇	五三六	三〇〇	三〇〇			
五〇〇	五三六	三〇〇				

四丁	三丁	七丁	十三	七丁	三丁	六丁
正金	諸口借	會津屋	河内屋	品物借	品物借	品物借
借	借	借	借	借	借	借
廿三日	廿三日	廿二日	二十日			
三〇〇	三二四	四四	四四			
六〇〇	三二四	四四	二二五			

明治六年 二月一日		借	
ク 八廿 平均へ		諸口へ	
一七、六〇、三〇、五	二、一〇、三〇、五	丁一	一五、五〇、〇
明治六年 二月一日		借	
損益ニテ		諸口ニテ	
一七、六〇、三〇、五	五三三〇、五	丁一	一七、七〇、七〇
明治六年 二月一日		貸	
諸口ニテ		損益ニテ	
一七、六〇、三〇、五	五三三〇、五	丁一	一七、七〇、七〇

第 二 式

# 大 帳

元 入

帳目

帳目

帳目

五	十三	五	五	四
雑費		正金		正金
借		借		借
正金へ		品物へ		品物へ
廿八日		廿七日		廿六日
五一	一〇〇	三六	一〇四	一〇四
一一				
九八				
〇五				
五一	一〇〇	三六	一〇四	一〇四
一一				
九八				
〇五				

帳目

帳目

帳目



二月 六 明治	借
日一	元八へ
丁一	六〇〇
二月 六 明治	
三廿	諸口ニテ
丁八	六〇〇
	貸

借

甲州屋

貸

長...

朱...

...

二月 六 明治	借
日一	元八へ
丁一	一〇五〇
二月 六 明治	
八廿	平均ニテ
丁九	四四七三
	貸

借

請取口手形

貸

帳...

...

...

借

河内屋

貸

二月 六 明治	借
日一	元八へ
丁一	一七五〇
二月 六 明治	
八廿	平均ニテ
丁八	一七九四
	貸

借

丁八 丁一

一七九四

四四

二月 六 明治

八廿 平均ニテ

一七九四

一七九四

二月 六 明治

日一 元八へ

丁九 丁三 丁一

四四七三

三〇〇〇

四二三

二月 六 明治

八廿 平均ニテ

四四七三

四四七三

借

ク	ク	ク	ク	ク	ク	二月	六明治
六廿	三廿	七十	五十	日七	日五	日一	
品物へ	甲州屋へ	上總屋へ	ク	ク	品物へ	元入へ	
丁十	丁八	丁七	丁七	丁五	丁四	丁一	
一〇	三〇	五〇	三七	一八	六七	八二	
四〇	〇〇	四	五	六		七	
ク	ク	ク	ク	ク	ク	二月	六明治
五廿	五十	日十	日八	日六	日三	日一	
山城屋ニテ	雜費ニテ	駿河屋ニテ	ク	品物ニテ	尾張屋ニテ	品物ニテ	
丁九	丁七	丁六	丁五	丁四	丁三	丁二	
三〇	一〇	四〇	七五	二一	七五	一七	
〇〇	〇〇	〇〇	三五	〇	〇	三二	

正金

貸

中倉之簿  
卷之四

借

ク	二月	六明治	ク	ク	ク
日五	日一		七廿		
拂口手形へ	正金へ		ク		
丁三	丁二		丁十		
二五	一七		一		
〇	七三		四		
	二		一		
ク	二月	六明治	ク	ク	ク
日三	日二		ク	八廿	六廿
請取口手形ニテ	武藏屋ニテ		平均ニテ	雜費ニテ	拂口手形ニテ
丁三	丁二		丁十	丁九	
四二	三七		一		
三	七五		三		
	五		四		

品物

貸

長  
卷之四

中  
公  
之  
所  
卷  
之  
四

二月  
日六  
正金へ  
ク  
日八  
ク  
八廿  
損益へ

丁五 丁四

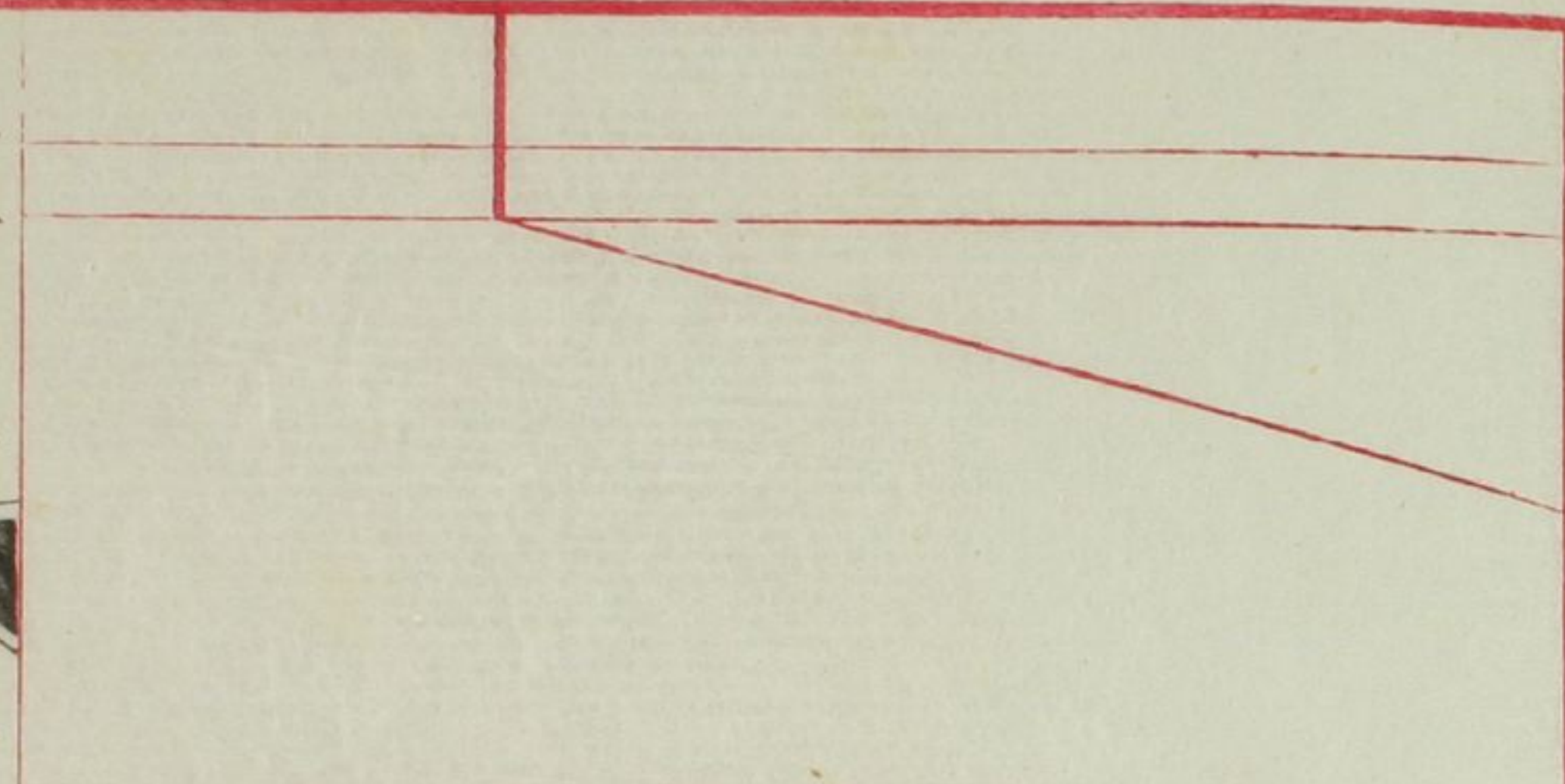
二一。  
七五三。  
七三三。  
五。

ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	二月
八十	五十	四十	三十	二十	日九	日七	日六	日五	日四
武藏屋ニテ	正金ニテ	南部屋ニテ	津輕屋ニテ	駿河屋ニテ	南部屋ニテ	正金ニテ	岩城屋ニテ	正金ニテ	上總屋ニテ

丁八 丁七 ク ク 丁六 ク 丁五 ク 丁四 丁三

二二五。  
三七五。  
一七〇五。  
二九  
九五八。  
一一八二。  
一八六。  
八二  
六七  
五四

長  
公  
之  
所  
卷  
之  
四



三、六、七、八、五、五

ク	ク	ク	ク	ク	ク
十二	二廿	五廿	六廿	七廿	八廿
河内屋ニテ	會津屋ニテ	尾張屋ニテ	正金ニテ	ク	平均ニテ(残品)

ク 丁十 丁九 ク ク

四四  
三二四。  
五三六。  
一〇四。  
三六  
二五〇。

二月 五廿	二月 日三	借	ク 八廿
品物へ	正金へ		平均へ
丁九	丁三		
五三六。	七五。		六〇〇。
二月 八廿	二月 日一	尾張屋	
平均ニテ	元入ニテ		
丁二	丁二		
五三六。	七五。	貸	六〇〇。

二月 五廿	二月 六廿	借	ク 八廿	借
正金へ	正金へ		平均へ	
丁九	丁九			
三〇〇。	五〇〇。		二五〇。	七五〇。
二月 日一	二月 日一	山城屋		
元入ニテ	元入ニテ		品物ニテ	
丁二	丁二			
六〇〇。	五〇〇。	貸	二五〇。	七五〇。

拂口手形

貸

借	二月 六明治 日四	品物へ	丁三	五 四	上 總 屋	二月 六明治 日二	品物へ	丁七 丁二	六	二 二 五	三 七 五	武 藏 屋	二月 六明治 日二	品物へ	丁七 丁二	六	二 二 五	三 七 五	貸
	二月 六明治 日七	正金ニテ	丁七	五 四		二月 六明治 日八	平均ニテ	丁七 丁二	六	六	六		六						

長

家

三

借	二月 六明治 日十	正金へ	駿 河 屋	二月 六明治 日一	九 八 ニ テ	貸					
	二月 六明治 日十	品物へ		丁六 丁五	八 二 五 〇 〇 〇		四 一 五 四 二 〇	九 五 八 〇	四 〇 〇 〇	二月 六明治 日一	九 八 ニ テ

帳

之

十

二月 六明治 二廿	品物へ	丁八	三二 四〇
二月 六明治 二廿	平均ニテ		三二 四〇

借

會津屋

貸

二月 六明治 八廿	正金へ	丁十 丁七	二〇 〇	一〇 〇	一〇 〇
二月 六明治 八廿	損益ニテ		二〇 〇	二〇 〇	

借

雜費

貸

二月 六明治 三十	品物へ	丁六	二九
二月 六明治 三十	平均ニテ		二九

借

津輕屋

貸

二月 六明治 九日	品物へ	丁六 丁五	一三五 二五	一一八 二〇 五
二月 六明治 八廿	平均ニテ		一三五 二五	一一八 二〇 五

借

南部屋

貸

中

卷之四



中合之海

卷之四

ク	津輕屋へ	二九	九、五、七、二、五		九、五、七、二、五
	ク	三八			
	ク	三二四			
ク	會津屋へ	八二	九、五、七、二、五		
ク	岩城屋へ	二九			

附

明治六年二月 二十八日筆			元入			三〇五	三〇五	三〇五
			請取口手形	四、七、三	、	、	、	、
			河内屋	一、七、九、四	、	、	、	、
			品物	三、四、八	、	、	、	、
			拂口手形	二、五、〇	、	、	、	、
			山城屋	三、〇、〇	、	、	、	、
			尾張屋	五、三、六	、	、	、	、
			駿河屋	四、一、五、四、二	、	、	、	、
			武藏屋	六、〇	、	、	、	、
			南部屋	一、三、五、二、五	、	、	、	、
			津輕屋	二、九	、	、	、	、
			雜費	三、二、四	、	、	、	、
			會津屋	八、二	、	、	、	、
			岩城屋	二、一、〇、三、〇、五	、	、	、	、
			此平均表	二、一、〇、三、〇、五	、	、	、	、
				三〇五	、	、	、	、
				九、五、七、二、五	、	、	、	、
				二、一、〇、三、〇、五	、	、	、	、

方





第一式ハ高賣ノ始末ヲ別段ノ惣勘定ニテ示スノ趣向ナ  
 ルユエ大帳ヲバ付流シノ有様ニテ差置キタリ唯高賣ノ  
 有様ヲ知ルノミノ趣意ナレバ一式ノ法ニテ十分ナレド  
 大帳ニ由テ永ク高賣ノ盛衰ヲ見シニハ其勘定ヲ切テ  
 平均ノ口欲又ハ他ノ口ニテ勘定ノ鈎合ヲ示サバ可ラ  
 ズ本式ノ大帳ニハ二様ノ勘定ヲ記ストノ一ハ第一式ニ  
 附シタル惣勘定ヲ見テコレヲ知ル可シ即チ一ニハ元手  
 ト拂口トヲ記シテ現在ノ高賣ノ有様ヲ示シ二ニハ損亡  
 ト利益トヲ記シテ高賣ノ盛衰ヲ示スナリ今此二様ノ勘

大帳ヲメ切ル順序ト趣意ヲ説ク

第十二年十一月三日迄ノ一ヶ月ノ数字ヲ示ス

相違ハ一箇ノ内

	目付	目付	目付	目付	目付
仕入	10	2			
仕出	11	2			
仕入	13	100			
仕出	14	100			
仕入	15	100			
仕出	16	100			
仕入	17	100			
仕出	18	100			
仕入	19	100			
仕出	20	100			
仕入	21	100			
仕出	22	100			
仕入	23	100			
仕出	24	100			
仕入	25	100			
仕出	26	100			
仕入	27	100			
仕出	28	100			
仕入	29	100			
仕出	30	100			
仕入	31	100			
仕出	32	100			
仕入	33	100			
仕出	34	100			
仕入	35	100			
仕出	36	100			
仕入	37	100			
仕出	38	100			
仕入	39	100			
仕出	40	100			
仕入	41	100			
仕出	42	100			
仕入	43	100			
仕出	44	100			
仕入	45	100			
仕出	46	100			
仕入	47	100			
仕出	48	100			
仕入	49	100			
仕出	50	100			
仕入	51	100			
仕出	52	100			
仕入	53	100			
仕出	54	100			
仕入	55	100			
仕出	56	100			
仕入	57	100			
仕出	58	100			
仕入	59	100			
仕出	60	100			
仕入	61	100			
仕出	62	100			
仕入	63	100			
仕出	64	100			
仕入	65	100			
仕出	66	100			
仕入	67	100			
仕出	68	100			
仕入	69	100			
仕出	70	100			
仕入	71	100			
仕出	72	100			
仕入	73	100			
仕出	74	100			
仕入	75	100			
仕出	76	100			
仕入	77	100			
仕出	78	100			
仕入	79	100			
仕出	80	100			
仕入	81	100			
仕出	82	100			
仕入	83	100			
仕出	84	100			
仕入	85	100			
仕出	86	100			
仕入	87	100			
仕出	88	100			
仕入	89	100			
仕出	90	100			
仕入	91	100			
仕出	92	100			
仕入	93	100			
仕出	94	100			
仕入	95	100			
仕出	96	100			
仕入	97	100			
仕出	98	100			
仕入	99	100			
仕出	100	100			

ハシセラニテ

定ヲ明ニ區別シテ字義ヲ定メンガタノ其一ヲ事實ト名  
ケ其二ヲ名目ト名ケリ故ニ事實ノ勘定ハ借貸兩方ノ差  
ヲ以テ元手欵又ハ拂口ノ高ヲ示シ名目ノ勘定ハ其差ヲ  
以テ利益欵又ハ損亡ノ高ヲ示スナリ學者若シヨク心ヲ  
用ヒテ此教ヲ熟考スルキハ彼ノ事實ト名目ト二様ノ區  
別ヲ為ス一容易ナル可シ大帳ヲ切ルノ趣意ハ名目ノ  
勘定ヲ始末シテ大帳付掛リノ有様ヲ一度ヒ落着センガ  
タメナリ如何トナレバ高賣ノ主人タル者ハ正味ノ元入  
ヲ以テ貸ト為スガ故ニ得ル所ノ利益ヲ加ヘテ元入ノ高  
ヲ増スキハ其増シタル丈ケノ利得アルベケレバナリ高

賣ニ就キ損益アル毎ニ逐一コレヲ主人ノ勘定中ニ其元  
高ニ加ヘントスルモ行ハレ難キ一ナレバ都合ヨキ期限  
マデ差置クモ妨ナシトス此期限ハ世間一般ノ高家ニテ  
一年ニ一度ヲ通例トス或ハ六箇月毎ニ改ルモノモアリ  
此期限ヲ改レバ高賣ヲ一新シテ大帳ノ面ニハ唯元手ト  
拂口トノ高アルノミ左ニ示ス所ハ大帳ヲメ切ルノ仕方  
ナルユエ學者コレニ心ヲ用ヒザル可ラズ

大帳メ切ノ仕方

稽古人ハ既ニ此第二式ニ於テ取引ノ扣テ清書シ又コレ  
ヲ大帳ニ寫スノ仕方ヲ學ヒ得タル一ナレバ其大帳ノ勘

定ニハ借ト貸ト平等ノ高ヲ記シタル筈ナレモ今又コノ事ヲ明ニ知ラシメレガタメ左ニ平均改ノ表ヲ示スナリ

平均之改

借	大帳ノ面	貸
差	大帳ノ面	大帳ノ面
一、七九四 四、四七三	一、五五〇〇 四、四七三 一、七九四 六、〇〇〇	一、五七〇
三、四八	一、四九三五〇	一、一四五五〇
	元入 請取手形 河内屋 甲州屋 正金	
	差	

品物	一、七六六九五	一、二七八五五	一、五七〇
拂口手形	五〇〇	七五〇	二五〇
山城屋	三、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇
尾張屋	八〇三六〇	七五〇	四、一五四二〇
駿河屋	四、〇九五八〇	八、二五〇	
武藏屋	六〇		
上総屋	五四	五四	
南部屋	一三五二五		
津輕屋	二九		
雜費	二〇〇		
	二〇〇		
	一三五二五		
	二九		
	二〇〇		
	六〇		
	五三六〇		
	一三五二五		
	二九		
	二〇〇		

三二四〇	三二四〇	會津屋	五二、一九八〇、五
八二	八二	岩城屋	八、九七四二〇
八、九七四二〇	五二、一九八〇、五	平等付合	

此平均改ノ体裁ハ用ヲ為ス最モ廣クシテ我輩ノ称譽  
 スル所ノモノナリ大帳ノ面ト記セル箇条ノメ高ハ正シ  
 ク日記帳清書帳ノメ高ニ符合スルユエ都テ取引ノ扣ハ  
 大帳へ寫シテ洩ル、ナカリシ證據ヲ見ル可シ差ト記  
 セル箇条モ双方互ニ平均シテ勘定ニ間違ナキ證據ト為  
 ルナリ  
 右ノ如ク取引ノ扣ヲ大帳へ寫スニ就テハ少シモ間違

ナカリシユエ今コ、ニテ大帳ノ勘定ヲメ切ル仕方ヲ説  
 ク可シ抑モ大帳ヲメ切ルノ趣意ハ我商賣ノ今ノ有様ト  
 其盛衰ノ變ヲ見ンガタメナレバ此大趣意ヲ忘ル可ラズ  
 但シ商賣ノ有様ハ元手ト拂口トノ高ヲ以テ見ル可ク其  
 盛衰ノ變ハ利益ト損亡トノ多少ニ由テ知ル可キナリ  
 大帳ノ面ニ見ハレタル事柄ヲ細ニ吟味スル氏ハ左ノ區  
 別ヲ發見ス可シ即千元手ノ高ハ事實ノ勘定ニ見ハレタ  
 ル借ノ方ノ過剩ニ由テ知ル可ク拂口ノ高ハ其貸ノ方ノ  
 過剩ニ由テ知ル可シ損亡ノ高ハ名目ノ勘定ニ見ハレタ  
 ル借ノ方ノ過剩ニ由テ知ル可ク利益ノ高ハ其貸ノ方ノ

過剩ニ由テ知ル可シ故ニ此二箇条ヲ以テ勘定ノ口ヲ立  
 ルモ自カラ其理アルナリ即チ其一ハ元手ト拂口トヲ示  
 シ其二ハ損亡ト利益トヲ示スモノトス大帳ノ面ニテハ  
 此二箇条ノ勘定ヲ損益並ニ平均ト名ケテ兩様ニ口取ノ  
 場所ヲ立テ損益ノ口ニハ名目ノ勘定ヲ記シ平均ノ口ニ  
 ハ事實ノ勘定ヲ記スナリ右ノ如ク勘定ノ口々ヲ定メテ  
 コレヲノ切ルノ一段ニ至リ尚注意ス可キ一事アリ即チ  
 其一事トハ品物ノ勘定是ナリ品物ノ勘定ハコノ大帳ノ  
 面ニテ借ノ方ニ過剩アリ故ニ品物ヲ残ラズ賣拂ヒシ上  
 ニテ此勘定ナレバ品物ノ賣買ニ付キ損亡ヲ生ジタル誤

ナレ氏大帳ノ勘定ノミニテハ品物ヲ残ラズ賣拂ヒシヤ  
 否ハ知ル可ラズ其事實ヲ明ニスルニハ現在ノ仕入残品  
 ヲ調べテ其代金ヲ定メザル可ラズ残品ノ代金ヲ定レバ  
 品物ノ勘定口ハ其代金ノ高ヲ以テ貸ト為シ平均ノ勘定  
 口ニハコノ高ヲ以テ借ト為スナリ斯ノ如クシテ後ニ品  
 物ノ勘定口モ實ノ損益ヲ見ハステ得ルナリ此大帳ニテ  
 残品ノ代金ヲ二千五百圓ニ積リ品物ノ勘定口ニハ此高  
 ヲ朱書ニテ貸ノ方ニ記シ平均ノ勘定口ヘハ直ニコレヲ  
 借ノ方ニ記セリ諸勘定ノ口々右ノ如クシテ始テノ切り  
 ノ有様ヲ得タレバ其順序ニ從テコレヲ記ス可シ○元入

ハ主人ノ勘定ナリコレニ次ク第一ノモノヲ請取口手形  
トス此勘定ハ我手元ニアル他人ノ手形ヲ以テ元手ト為  
スモノナリ故ニ借ノ方ニ見ハレタル高ハ請取タル手形  
ノ高ナリ貸ノ方ニ見ハレタル高ハ引替ル状又ハ他ニ用  
ヒタル手形ノ高ナリコレヲメ切ルノ法ハ朱書ヲ以テ借  
貸ノ差ヲ貸ノ方ニ記シ双方共ニ高ヲシメテ其メ高ノ下  
ニ朱ノ線ヲ引キ平均ニテト記シタル高ハ直ニ平均ノ勘  
定口ニ移スナリ其次ハ河内屋ノ勘定口ナリコレヲメ切  
ルノ法前ノ如シ其次ハ甲州屋ナリ此勘定ハ既ニ差引平  
均セシユエ唯朱ノ線ヲ引クノミ其次ハ正金ノ勘定口ナ

リコレヲノ切ルノ法ハ請取口手形ノ如クシ平均ノ差ハ  
元手トシテ平均ノ勘定口へ移スナリ品物ノ勘定口ニハ  
利益ヲ見タルユエ其平均ノ差ハ損益ノ勘定口ノ貸ノ方  
へ移スナリ拂口手形ノ勘定口ハ我引負拂口ノ高ヲ示ス  
モノニテ其平均ノ差ハ平均ノ勘定口ノ貸ノ方へ移スナ  
リ山城屋ノ勘定口モ亦引負拂口ノ高ヲ示スモノニテ其  
平均ノ差ハ平均ノ勘定口ノ貸ノ方へ移スナリ尾張屋ノ  
勘定口ハ我元手ノ高ヲ示スモノニテ其平均ノ差ハ平均  
ノ勘定口ノ借ノ方へ移スナリ駿河屋ノ勘定口ハ我引負  
ニテ平均ノ貸ノ方へ移スナリ武藏屋南部屋津輕屋ノ勘

定口ハ何レモ我元手ノ高ニテ平均ノ借ノ方ヘ移スナリ  
雜費ノ勘定口ハ損亡ヲ示スモノニテ損益ノ勘定口ノ借  
ノ方ヘ移スナリ會津屋岩城屋ノ勘定口ハ二口共ニ我元  
手ニテ平均ノ借ノ方ヘ移スナリ

(原註)都テ大帳ニ記シタル朱書ハ此勘定口ヨリ他ノ勘  
定口ヘ移ス欵又ハ同シ勘定口ニテモ一度ヒ記シテ又  
重テ其勘定中ノ他ノ場所ヘ移ス可キ箇条ノ印ナリ又  
コノ朱書ハ唯大帳ノミニ始テ見ハレ他帳ヨリ寫シ来  
タルモノニ非ザルノ印ナリ又コノ朱書ハ借貸ノ過剩  
ヲ示スモノナルユエ必ず借貸相反對シタル方ヘ移ス

可キモノナリ

右ノ趣向ニテ損益ト平均トノ勘定口ニ見ハレタル二箇  
条ハ悉皆其始末ヲ得タルユエ其平均ノ差ヲ移スニ付キ  
間違アラザレバコノ二箇条ノ勘定ト元入ノ勘定トヲ合  
シテ必ス平等付合ノ數ヲ得ル筈ナリコレヲ試ルタメニ  
ハ此三箇条ノ平均改ノ表ヲ作ル可シコレヲ第二平均ノ  
改ト名ク

## 第二平均之改

借

貸

元入

一五、五〇。

一七、七〇。



損益  
平均

二五、二〇、七二五	九五、七二五	二〇〇	七三三、五
二五	七二五		
二五、二〇、七二五	七四、四二〇		
七二五			

右第二平均ノ改ヲ以テ試ミタルニ平均ノ差ヲ移スニ付  
 キ間違モナカリシユエ乃チ損益ノ勘定口ヨリ正味ノ利  
 益ヲ取テコレヲ元入ノ勘定口ニ移シ以テ大帳メ切ノ大  
 趣意ヲ終ル可シ元入ノ勘定口へ此利益ヲ加ヘタレバ其  
 元金ノ高ハ以前ヨリモ増シタリコノ増シタル高ハ即チ  
 現在身代ノ高ナリコノ高ヲ平均ノ勘定口ニ記シテ勘定  
 ヲメ切ルキハ其勘定ノ平等付合ヲ得テ元手ト拂口トノ

有様ヲ明ニ見ル可キナリ

此第二式ニ於テ平均ノ勘定口ヲ立テタルハ元手ト拂口  
 トチ一口ノ勘定ニ集ルノ便利アルガタメナリ又一法ニ  
 ハ其平均ノ差ヲ平均表ノ事實ノ勘定中ニ記スモ可ナリ  
 此法ハ高賣ノ用ニモ叶ヒ殊ニ同シ大帳ヲ永ク用ヒ引續  
 テ勘定ヲ記スルニハコノ法ヲ最モ便利ナリトス  
 以上記ス所ノ論説ト其實用トチ了解セシメテ後又大帳  
 ヲメ切ルノ順序ヲ説ク可シコノ一事モ亦稽古人ノ格別  
 ニヨク註意シテ少シモ間違ナキヤウコレヲ實地ニ施ス  
 可キモノナリ

ノ切ノ順序

第一 大帳ノ面ニ損益ノ勘定口ヲ立テ次ニ平均ノ勘定口ヲ立ツ可シ即チ損益ノ口ニハ損亡ト利益トヲ見ハシ平均ノ口ニハ元手ト拂口トヲ見ハスモノナリ

第二 仕入帳ヲ調ベテ賣捌残品ノ有無ヲ糺シ残品アレバモト其品物ニテ借ト為リタル口々ノ勘定へ残品ノ代金ヲ舉ケ平均ニテトノ文句ヲ朱書ニ記シテ其勘定口ノ貸ト為シ其高ヲ平均ノ勘定口ニ移シテ品物へ或ハ不動産へト墨ニテ記シ其勘定口ノ借ト為ス可シ第二式ニテ云へバ品物ノ勘定口ヨリ二千五百円ヲ平均ノ勘定口ヘ移シタルガ如キ是ナリ斯ノ如クシテ後大帳

ノ面ニアル諸口ノ勘定悉皆左ノ四箇条ニ洩ル、モノナシ即チ元手ト拂口ト利益ト損亡トノ四箇条ナリ

第三 元入ノ口ヲ除キ大帳ノ面ニアル初筆ノ勘定口ヨリメ切ヲ始ム此勘定口ノ差列ナルモノハ必ズ前章ニ云ヘル四箇条ノ外ニ洩レザル筈ナレバ其箇条ニ從テコレヲ記ス可シ譬へバ其勘定口ニアル借貸ノ差元手款又ハ拂口ニ係ルナラバ其高ノ少ナキ方へ朱書ニテ平均ヘト款又ハ平均ニテト款記シ置キ其記シタル高ヲ墨ニテ平均ノ勘定口ヘ移シ記ス可シ或ハ又其借貸ノ差利益款又ハ損亡ニ係ルナラバ其高ノ少ナキ方へ朱書ヲ以テ

損益へト款又ハ損益ニテト款記シ置キ其記シタル高ヲ  
 墨ニテ損益ノ勘定口へ移シ記ス可シ大帳ノ面ニアル諸  
 口ノ勘定ヲバ悉皆コノ法ニテ差引テ定ル氏ハ損益ノ勘  
 定口ニ見ハレタル借ノ方ハ残ラズ損亡ノ高ヲ示シ貸ノ  
 方ハ残ラズ利益ノ高ヲ示シ其高ノ差ハ即チ正味ノ損亡  
 款又ハ正味ノ利益ナリ又平均ノ勘定口ハ借ノ方ニ於テ  
 悉皆元手ノ高ヲ示シ貸ノ方ニ於テ悉皆拂口ノ高ヲ示シ  
 其高ノ差ハ即チ主人タル者ノ正味ノ利益款又ハ現在元  
 入ノ高ナリ

第四 第二平均改ノ表ヲ作り元入ト損益ト平均トノ三

箇条ヲ記ス可シ諸口ノ差引ヲ移シ記スニ付間違アラザ  
 レバ此表ニ見ハレタル借貸ノ高ハ正シク互ニ平等ス可  
 キ筈ナリ

第五 損益ノ勘定ヲ元入ニ移ス款又ハ組合ノ高賣ナラ  
 バ其組合ノ人當ノ勘定口ニ移シ約条ニ從テ損益ヲ分ツ  
 可シ斯ノ如クスル氏ハ元入ノ勘定口款又ハ組合人ノ勘  
 定口ニ見ハレタル高ハ即チ最初ノ元入高ヲ利益ニテ増  
 シタルモノ款或ハ損亡ニテ減シタルモノニテ其差ハ現  
 在正味ノ元入高ナリ平均ノ勘定口モ同様ノ始末ヲ示ス  
 モノナレバ其高モ同様ナル可キ筈ナリ

第六 元入ノ勘定ヲ平均ノ勘定口へ移シテ其口ノ出入  
ヲ平等ニス可シ斯ノ如クスレバ平均ノ勘定口ニ於テハ  
一方ニ悉皆ノ元手ヲ示シ一方ニ悉皆ノ拂口ヲ示シ其体  
裁最モ簡約ニシテ正シク商賣ノ有様ヲ見ル可シ

平均表

高家ノ言葉ニテ平均表トハ商賣ノ有様ヲ一目ニ見ンガ  
タメニ順序次第ヲ糺シテ事柄ヲ記シタルモノナリ其体  
裁ハ事宜ニ從ヒ或ハ商人ノ工夫ニ由テ一樣ナラズ本書  
第二十三丁ニ示ス所ノ一例ハ余輩ノ所見ニテ最モヨク  
体ヲ備ヘタルモノナリ今其和解ヲ左ニ示スガ故ニ學者

コレニ由テ帳合ノタメニコノ表ヲ作ルノ助ヲ得ベシ又  
事柄ヲ定メテコレヲ記スノ法ハ少シク勉強スレバ誰ニ  
テモ容易ニ知ル可キナリ

第一 用ユ可キ大サノ紙ヲ取り其縁へ朱ニテ線ヲ引キ  
コレヲ全紙ノ界ト爲ス

第二 上ニ二筋ノ線ヲ引テ名号ヲ記スベキ場所ト爲ス  
一前ノ例ニ示シタルガ如シ

第三 大帳ノ面ニアル勘定口ノ數ヲ計フ可シ但シコノ  
數ハ平均改ノ表ニ見ハレタル勘定口ノ内ヨリ差引皆済  
ノ分ヲ除キタルモノナリ(註)コノ勘定口ノ數ニ從ヒペン

シルニテ左右ニ線ヲ引ク可シ其線ノ數ハ商賣ノ主人一  
 名ナレバ勘定口ノ數ヨリモ五筋ヲ増シ或ハ二三人ノ組  
 合商賣ナレバ一人ニ付三筋ツ、ヲ増ス可シ故ニ主人一  
 名ノ商賣ニハ勘定口ノ數ヨリ五筋ヲ増シ二人ノ組合ニ  
 ハ八筋ヲ増シ三人ノ組合ニハ十一筋ヲ増スナリ

第四 借貸ノ金ノ高ヲ記スヘキ場所ヲ定ム可シ即チ弟  
 一ハ大帳諸口ノノ高弟二ハ損益弟三ハ元入或ハ組合ナ  
 レバ組合ノ人名弟四ハ元手ト拂口ト是ナリ別ニ又仕入  
 残品ト大帳ノ丁數ノタメニ各一箇所ヲ設ク其体裁ハ例  
 ニ示スガ如シ但シコノ場所ヲ定ルニハコンパスヲ用ヒ

名号ト金高ノ數字ト鈎合ヨキヤウニ為ス可シ

第五 右ノ如ク場所ヲ定ルニハ假ニ先ツペンシルヲ用  
 ヒ置キ其位置既ニ定ルキハ右ノ方ヨリ始メテ上下ニ朱  
 ノ線ヲ引キ事實ト元入トノ二箇条ノ筋ヲ引キ下ダシテ  
 左右ノペンシルノ線ノ最モ下ナルモノニ達ス可シ組合  
 ノ商賣ナレバ別ニ又二筋ヲ引クナリ又一人ノ商賣ナレ  
 バ損益ノ箇条ニ二筋ヲ引キ組合ナレバコノ箇条ニモ別  
 ニ一筋ヲ増ス可シ

第六 右ノ如ク上下左右ノ線ヲ引キ下ニ又留ノ線ヲ引  
 テ其系線ノ内ニ勘定ヲ書キ記ス可キナリ

第三條ノ註他人トノ勘定口ノ數多クシテコレヲ平均  
 表ニ記スニ一々口ヲ分ツ可ラザルニアラバ諸口ノ勘  
 定ヲニニ分チ一ヲ請取口ノ勘定ト為シ一ヲ拂口ノ勘  
 定ト為シ此方ヘ對シテ借ト為リタル人ノ勘定ハ悉皆  
 請取口ヘ集メ此方ヘ對シテ貸ト為リタル人ノ勘定ハ  
 悉皆拂口ヘ集メテ此表ヲ作り尋常ノ商賣ニ差支ナカ  
 ル可シ

事柄ノ始末ヲ示スノ法ハ線ヲ引クノ順序ニ同シク其始  
 末ヲ見ルノ法ハ大帳ヲメ切ルノ法ノ如シ但シ大帳メ切  
 ノ法ハ前既ニコレヲ記シタレバ今コ、ニ說辨スルニ及

バザルナリ

商賣ニ付世間ニテ用ル惣勘定ノ法ハ一様ナラズ其法ノ  
 異ナルニ從テ又各一種ノ便利アリト云々其結局其趣意ハ  
 商賣ノ真ノ有様ヲ知り其進歩シテ繁昌ニ趣クノ模様ヲ  
 見ルノ一事ニ在ルノミ此書ニ示シタル惣勘定ノ諸法ハ  
 何レモ皆便利ナルモノニテ殊ニ第一式ノ末ニ出シタル  
 法ハ簡約ニシテ其用ハ廣ク帳合ノ學術ニ慣レザル人ノ  
 最モ悦ノ可キモノナリト云々今コ、ニ記セル平均表ノ  
 法ハ僅ニ一片ノ紙ニ數シキ事ノ箇条ヲ載セテ其簡便ナ  
 ルト他ニ比類ナキモノト云フ可シ第二十三丁ノ例ヲ熟

覽セバ其法ノ善美ニシテ學者ノ以テ手本ト爲ス可キ價  
アルヲ知ル可シ都テ勘定家ノ人物ヲ評スルニハ其勘定  
ノ仕組トコレヲ施シ行フノ精密ナルト否トヲ見テ其人  
ノ才不才ヲ定ム可キモノナリ若シモ此趣意ヲ誤ル氏ハ  
假令ヒ其人ニ如何ナル功能アルモ見ルニ足ラザルナリ  
又紙ニ糸ノ線ヲ引ク術モ或ハ容易ナルトノヤウニ思ハ  
ルレ氏決シテ然ラズ是亦一ノ執行ナレバコレヲ輕蔑ス  
可ラス

學者執行ノタメトシテ出入差列ノ二例ヲ左ニ示スガ故  
ニ第二十三丁平均表ノ体裁ニ倣ヒコノ出入差列ヲ集テ

惣勘定ノ表ヲ作ル可シ

第一例

平均之改

借

貸

元入	八八一	五〇〇〇
請取口手形	一五〇〇	一〇〇〇
朝吹屋	三〇〇	一七五
正金	五七九四六七	四八〇〇
品物(残品ノ高千二百圓)	三五〇〇	二七五九五
櫻井屋	四〇〇〇	一五〇〇
湯川屋		三八四

長...

雜費  
拂口手形  
山口屋

三七五八三	一、七五〇
一、五〇〇	四八三
一七、八五一五〇	一七、八五一五〇

第二例

### 平均之改

元入  
品物(残品ノ高一千圓)  
三文屋  
美津屋

一四一七八	三、〇〇〇
五、〇〇〇	三、七〇〇
一、五〇〇	九五三八四
七五三	

借  
貸

木賀津屋  
岩津屋  
歙津屋  
田丸屋  
加久寿屋  
正金  
雜費  
世話料  
請取口手形  
拂口手形

九〇〇	一一〇	七三二九八	七五	五〇〇	九七五三二〇	四五〇	一、七〇〇	一、五〇〇
五〇〇	五〇〇	五〇〇	九八三	八、七四八九〇	一八三二二	一五〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇



當世屋  
 崎水屋  
 頻田屋  
 羽根多屋  
 古論田屋  
 喜惠多屋

二九、三四〇	五〇〇	七五	九〇〇	五〇	七〇〇	四〇〇〇
九六						
二九、二九、三四〇			一五〇		八七四	四五九八
九六						

稽古人ノ試業第二番

覺書

二月一日 第三卷ノ最末ニナル大帳ノ勘定ヨリ出来タル平均表ノ元手ト拂口トヲ以テ商賣ヲ始ム即チ其元手ノ高左ノ如シ有金千八百二十二圓二十錢請取口手形ノ高百七十一圓五十錢伊賀屋ノ勘定三百五十圓駿河屋ノ勘定二百二十二圓五十錢相模屋ノ勘定百八十六圓武藏屋ノ勘定二百九十三圓七十五錢ナリ拂口ノ高ハ三河屋ヘ渡ス可キ此方ノ手形ノ高二千五百圓ナリ  
 同日 大津屋ヨリコツヒイ一斤十五錢替ニテ二十俵千

六百七十斤。米一斤四錢替ニテ七千五百斤。砂糖一斤五錢替ニテ十五樽。一万四千斤買取り代金差引

二日 草津屋ヨリタラシ砂糖一升四十錢替ニテ十二樽七石二斗。石鹼一斤八錢替ニテ二十箱千四百五十斤。豚肉一斤十錢替ニテ十樽二千斤買取り代現金

三日 水口屋ヘコツヒイ一斤十八錢替ニテ三十斤。米一斤五錢五厘替ニテ二十斤。砂糖一斤六錢替ニテ百斤賣渡シ代金差引○伊賀屋ヨリ差引濟切ニテ金一一請取

四日 筆紙墨代並ニ諸雜費二十圓拂

五日 石部屋ヘコツヒイ一斤十八錢替ニテ一俵八十斤。

タラシ砂糖一升五十錢替ニテ二斗。米一斤五錢五厘替ニテ三十斤賣渡シ代金差引○江戸屋ヨリチイス一斤二十錢替ニテ三百斤。バター一斤十八錢替ニテ二百五十斤買取り代現金○大和屋ヘ石鹼一斤十錢替ニテ五箱三百五十斤。コツヒイ一斤十六錢替ニテ六俵四百八十五斤賣渡シ代金ハ三十日限り同人ノ手形請取

六日 山城屋ヨリ上茶一斤三十五錢替ニテ四十箱二千三百五十六斤買取り代金ハ十日限り此方ノ手形渡ス○岡部屋ヘ上茶一斤三十八錢替ニテ十箱五百八十斤。チイス一斤二十二錢替ニテ百斤賣渡シ代現金

九日 三原屋へバター一斤二十錢替ニテ五十斤、コッヒイ一斤十八錢替ニテ五十斤、タラシ砂糖一升五十錢替ニテ三斗賣渡シ代現金

十日 福岡屋へタラシ砂糖一升五十錢替ニテ三斗米一斤六錢替ニテ十斤、石鹼一斤十錢替ニテ一箱七十五斤賣渡シ代現金

十二日 書記役ノ給料十五圓拂○肥後屋ヨリ粉砂糖一斤十錢替ニテ十五俵二千五百二十斤買取り代金差引十五日 駿河屋ヨリ差引金百圓請取○肥前屋へ上茶一斤五十錢替ニテ五箱二百七十五斤、チイス一斤二十三錢

替ニテ五十斤、米一斤五錢替ニテ二十五斤賣渡シ代金差引○駿河屋へタラシ砂糖一升五十錢替ニテ二斗、石鹼一斤十錢替ニテ三箱二百十斤賣渡シ代金差引

十六日 相摸屋ヨリ差引濟切ニテ金一圓請取○長崎屋へ粉砂糖一斤十一錢替ニテ二俵三百三十斤賣渡シ代現金

十七日 水口屋へコッヒイ一斤二十錢替ニテ五十斤粉砂糖一斤十一錢替ニテ百斤賣渡シ代金差引

十九日 山城屋へ渡ス可キ此方手形ノ高拂濟ニテ金八百二十四圓六十錢渡ス但シコノ手形ハ二月六日附ニテ

今日引替ノ期限ニ當ルモノナリ  
コノ手形六日付ニテ十日ノ期限ナレ氏三日ノ猶豫

ハ通法ナリ

二十日 嶋原屋へ粉砂糖一斤十一錢替ニテ百斤賣渡シ

代現金 ○駿河屋ヨリ差引濟切ニテ金百五十三圓五十錢

請取

二十二日 肥後屋へ差引濟切ニテ金二百五十二圓拂渡

○三島屋へ上茶一斤五十錢替ニテ二百二十五斤賣渡シ

代現金

二十三日 肥前屋へチイス一斤二十五錢替ニテ五十斤

粉砂糖一斤十二錢替ニテ七十五斤。コッヒイ一斤二十錢

替ニテ十五斤。石鹼一斤十錢替ニテ二箱百四十斤賣渡シ

代金差引

二十五日 石部屋へ砂糖一斤六錢替ニテ二樽千八百五

十斤賣渡シ代金差引 ○富士屋ノ手形濟切ニテ金百七十

一圓五十錢請取ル但シ此手形ハ先月三日附ニテ三月五

日渡リノ期限ナリ

二十七日 店賃百圓拂 惣勘定

稽古人ハ前ノ覺書ニ記シタル取引ヲ帳面ニ扣テ左ノ如ク平均ノ差引ヲ作ル可シ

# 平均之改

元入  
請取口手形  
正金  
武藏屋  
石部屋  
品物 (残品ノ高二千五百圓)  
拂口手形  
大津屋

二、五〇〇	二、八四一	三、二四五	二、九三七五	一、三七〇五	三、〇三六一	八、二四六
三、〇四五九五	一、七一五	一、九二〇六			九、六一四五	三、三二四六
一、二五〇五						

水口屋  
雜費  
肥前屋

三三五〇	一三五	一八八	一、〇六七四六	一、〇六七四六

# 平均之勘定

品物  
請取口手形  
正金  
武藏屋

二五〇〇	一一二六	一、三二一九	二、九三七五

元手

拂口

石部屋

拂口手形

大津屋

水口屋

肥前屋

元入(現在ノ身代)

四五八六八〇	一三八八	一三七〇五
四五八六八〇	八三六三〇	二五〇〇
四五八六八〇	一、二五〇五〇	一、二五〇五〇

吟味ノ問題

左ノ問題ニ答フ可キ事柄ハ本書ノ丁數ニ就テ見ル可シ  
 但シコレヨリ前ノ問題ニハ本文ヘモ番号ヲ附ケタレ氏  
 爰ニハコレヲ畧ス

第二丁ノ端書

- 一 如何シテ此式ハ前式ニ異ナルヤ
- 二 身代ノ勘定ニ付其趣向ノ異ナル所ハ如何
- 三 高賣品ノ勘定ヲ一般ニ記セズシテ一々其名目ヲ舉ルハ何ノタメナルヤ
- 四 元入ヲ以テ高賣ヲ始ル所ニハ帳合ノ初筆ニ何

事ヲ記スヤ

五 元入ヲ以テ貸ト為スハ何レノ勘定口ナルヤ

六 元入ノ勘定口トハ何モノナルヤ

七 諸口ノ文字ヲ帳合ニ用ルルハ其意味如何

八 此文字ヲ清書帳又ハ大帳ニ用ルルハ何故ナルヤ

第二十四丁大帳ヲメ切ル順序ト趣意

九 第一式ニ於テ大帳ノ有様ハ如何

十 如何ナル訳ナレバ此有様ニテ十分ナルヤ

十一 大帳ヲメ切ルノ事ハ何ノタメニ入用ナルヤ

十二 大帳ノ勘定ヲメ切ルルハ如何シテ勘定ノ鈎合

ヲ見ル可キヤ

十三 本式ノ帳合ニ於テハ勘定ノ種類ヲ幾様ト為ス

ヤ

十四 其區別ハ如何

十五 其名目ハ如何

十六 事實ノ勘定トハ何モノナルヤ

十七 名目ノ勘定トハ何モノナルヤ

十八 大帳ヲメ切ルノ趣意ハ如何

十九 商賣ニ於テ損益ノ高ヲ直ニ主人ノ勘定口ニ記

サズシテ名目ノ勘定中ニ差置クハ如何ナル故

ナルヤ

二十 世間一般ノ風ニテ利益ノ高ヲ主人ノ勘定口へ

移スハ幾度ヒナルヤ

二十一 損益ノ高ヲ主人ノ勘定口へ移スルハ大帳ノ面

ハ如何ナルヤ

二十二 取引ノ扣ヲ悉皆大帳へ寫シ終リシ上ニテ大切

ナル箇条ハ何事ナルヤ

二十三 平均ノ改ハ何ノ故ヲ以テ帳合ノ正シキ證據ト

為ルヤ

二十四 第二十五丁ノ平均改ハ何事ヲ示スモノナルヤ

二十五 高賣ノ今ノ有様ハ如何シテ見ル可キヤ

二十六 元手ハ如何シテ大帳ノ面ニ見ハル、ヤ

二十七 拂口ハ如何

二十八 損亡ハ如何

二十九 利益ハ如何

三十 是等ノ始末ヲ見シガタメニ設ル所ノ二様ノ勘

定ハ何モノナルヤ

三十一 損益ノ勘定口ニハ何事ヲ記スヤ

三十二 平均ノ勘定口ニハ何事ヲ記スヤ

三十三 品物ノ勘定口ヲ見テ残品ノ高ヲ知ル可キヤ



三十四 コレヲ知ルニハ如何セシ

三十五 仕入残品ノ高ヲ調ベテコレヲ品物ノ勘定口ノ

貸ト為スキハ此勘定口ヲ見テ何ヲ知ル可キヤ

三十六 勘定ヲメ切ルノ法ハ如何

三十七 勘定ヲメ切テ其差ヲ移スキニ高ノ少ナキ方ヘ

記スハ何故ナルヤ

三十八 勘定ノ平均ヲ移シテ間違ノ有無ハ何ヲ以テ證

ス可キヤ

三十九 第二平均ノ改ハ何レノ勘定ヲ示スモノナルヤ

四十 損益ノ高ヲ元入ノ勘定口ニ移セバ此勘定口ノ

差ノ高正シク元手ト拂口トヲ記シテ平均ノ勘  
定口ニ見ハレタル差ノ高ニ付合フハ何故ナル  
ヤ

四十一 大帳ヲメ切ルタメニ平均ノ勘定口ヲ設ルハ實

ニ必用ナルヤ

四十二 他ニモ亦其法アルヤ

四十三 大帳ヲメ切ル第一ノ手数ハ如何

四十四 第二ハ如何

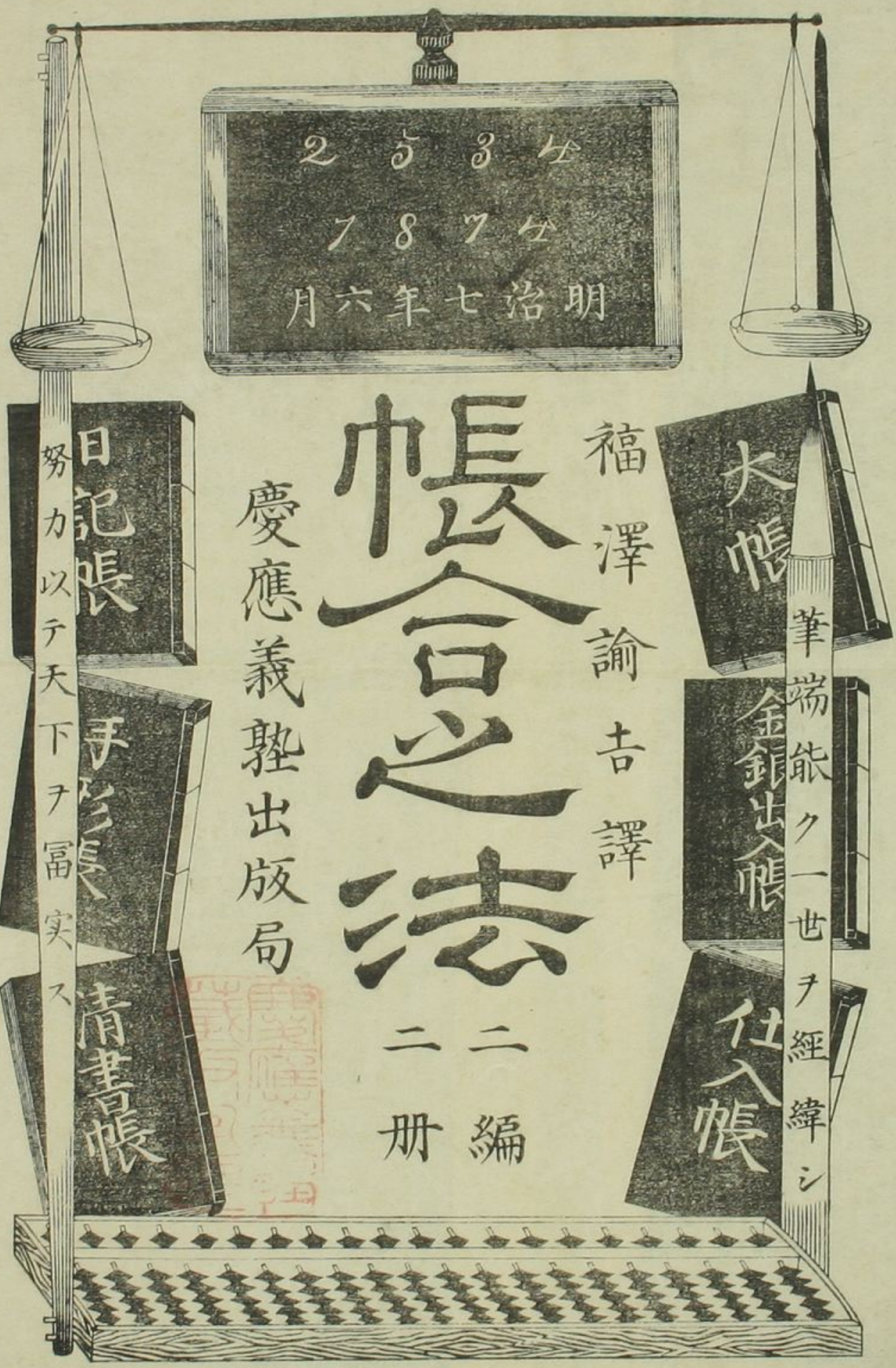
四十五 第三ハ如何

四十六 第四ハ如何

四十七 第五八如何

四十八 第六八如何

帳合之法卷之四終



2 5 3 仕  
7 8 7 仕  
月六年七治明

# 帳合之法

二二冊編

福澤諭吉譯

慶應義塾出版局

日記帳

手帳

清書帳

大帳

金銀出帳

仕入帳

努力以テ天下ヲ富実ス

筆端能ク一世ヲ經緯シ

